

鹿屋市いじめ・不登校対策

「構成的グループエンカウンター」の取組について

1 本市が構成的グループエンカウンター（SGE）を共通実践として取り組むねらい

「構成的グループエンカウンター」を意図的・計画的に実施することは、児童生徒の自尊感情、自己有用感、共感的な人間関係を育てるとともに、不登校の未然防止や学級集団のよりよい成長につなげることに効果的である。

これまでの、いじめや不登校に対する課題対応的な生徒指導から、本市が目に向けたのが、魅力ある学校づくり、魅力的な学級づくりや集団づくり、つまり、まず「学校が行きたいと思う場所になろう」という原点回帰の重要性であった。

いじめや不登校に対する迅速な発見、対応を大切にすることは、今後も共通理解、共通実践することはもちろんのことであるが、悩み苦しむ児童生徒を一人でも減らすためにできることとして考えた取組が、「構成的グループエンカウンター」である。自他を認め合える支持的風土の中において、望ましい自己有用感が得られたり、望ましい人間関係が築かれていたりする集団の一員は、安心できる学校から足が遠のくことはないだろうと考えている。

平成 28 年度から、鹿屋市内全ての学校において、教育課程に年 6 回以上位置付けて取り組んでいる。正しい方法で実施するために外部講師を招聘して研修会を催したり、本市指導主事による校内研修における講話及び演習を行ったりしながら、全ての学校職員が研修を重ねている。

鹿屋市におけるすべての児童生徒が、支持的風土の中で充実した学校生活を送り、「学校に行きたい」と思える居場所にするために、教職員が注力することをねらいとしている。

2 本市の特徴的な取組

- ・ 1 単位時間（45～50 分）の活動時間を年間 6 回以上実施する。計画的かつ実態に応じて弾力的に実施することとしており、朝の会や帰りの会等の短時間であっても、実施している。
- ・ 正しい方法（インストラクション「説明」→エクササイズ「実際」→シェアリング「共有」→まとめ）で、「構成的グループエンカウンター」を実施するために、積極的に講師を招聘して、市主催の研修会を開いたり、校内研修を充実させたりする。講師は、県総合教育センター研究主事、または本市の指導主事としている。

3 各学校における主な実施時間の一例

- ・ 学期 2 回、学級活動等の時間
- ・ 土曜授業日（毎月第二土曜）の 1 時間
- ・ （小）朝の活動において短時間（20 分）実施
- ・ （中）1 学期に重点的に学級活動の時間に 4 回実施
- ・ （小中）全校集会、学年集会、遠足、新入生を迎える会等で実施